



大石 岳史

高度交通システムと仮想現実感技術で新しい観光のあり方をさぐる

観光ITSに関する研究懇談会

RC-71

1. 代表幹事

大石岳史 (東京大学 生産技術研究所 准教授)

幹事

池内克史 (東京大学 生産技術研究所 教授)

須田義大 (東京大学 生産技術研究所 教授)

大口 敬 (東京大学 生産技術研究所 教授)

田中敏久 (東京大学 生産技術研究所 客員教授)

鈴木高宏 (東京大学 生産技術研究所 客員准教授)

影沢政隆 (東京大学 生産技術研究所 助教)

小野晋太郎 (東京大学 生産技術研究所 特任助教)

連絡先

大石・池内研究室秘書

Tel : 03-5452-6242

Fax : 03-5452-6244

e-mail : cvl-staff@cvtl.iis.u-tokyo.ac.jp

2. 主旨

近年、ITS（高度交通システム）における情報提供は、提供方法から提供情報の内容に興味に移りつつある。カーナビゲーション・システムは既に1つの確立したITSアプリケーションであるが、2次元デジタル地図を基本としており、運転者が実際に走行している環境での3次元的映像の提供は困難である。そのため、現状ではグーグル・ストリートビューに代表されるような画像を用いた、いわば2次元的表示を広範囲に提供する手法か、一部のカーナビに搭載されているようなごく一部の地点に簡易（昼夜同一の）3次元モデルを用意して提示する手法など、が使われているにすぎない。研究段階では、現在のカメラ画像に注釈（コメントや矢印を含む）をつけるシステムも開発されているが、重畳されるものは単純な図形やテキストだけである。

一方で、屋外大型有形文化財に対してもデジタル化技術が進み、既存の建築物の3次元モデル化やCGIによる仮想復元も可能になってきた。その結果、ユーザが仮想建築物の中や周囲を歩き回ることできる。

以上から、カーナビ技術に3次元複合現実感技術を融合することで、カーナビの3次元的映像提示および仮想建築物の街レベルでの実世界への重ね合わせが可能となる。本研究会では、こうした技術を展開する有効な第一歩として、観光地での利用者への映像提示への応用を考える。具体的には、奈良県明日香村で行っている事例を元に、今後の観光ITSの可能性について検討していく。

3. その他

参加費：賛助員の場合（賛助会費1口10万円）：参加費10万円
非賛助員の場合：参加費20万円

定員：特になし

運営方法：年6回、1回2時間程度の研究会を開催



+



車両とGoogle以外にも様々なメディアと移動手段の組み合わせで観光ITSへ

奈良県明日香村の事例：現在の川原寺跡を特殊Googleで車内から望むと往時の姿が再現